

令和 8 年 2 月 26 日

世田谷区立明正小学校校長 栗林大輔殿

世田谷区立明正小学校  
学校関係者評価委員会  
委員長 西山 朝子

## 令和 7 年度 明正小学校関係者評価結果報告

令和 6 年度の学校関係者評価結果を報告いたします。この報告書作成にあたり、学校関係者評価アンケート集計結果、自己評価報告書（学校教職員による内部評価で評価項目ごとに 1 年間の課題を洗い出し、次年度に向けての改善策等を検討する）、先生方との懇談会でのヒアリング、授業・行事の見学等をもとに、委員会において検討し、評価しました。

この結果報告を本校児童の教育環境の充実に向けて役立ててください。

### ◎総評

令和 7 年度、児童向けアンケートの学習指導・生活指導・学校行事についての項目でプラス評価（「とても思う」と「思う」の合計）が概ね 80%以上を保っており、とくに学校行事に関しては高い数値となっている。今年度も、児童と先生の関係は良好に保たれたと評価する。

自己評価報告書やヒアリングによると、先生方の間で問題意識や悩みを発信し共有しやすい風通しの良い職場になっていることがうかがえる。校内研究や研修が授業力向上に有効で、その中で「それぞれ得意分野やアイデアをいかし、全体で学び合おうとする風土が根付いている」との声もきかれた。IT 研修は自由参加で、必要と感じる人が利用できてよかったとの声もあった。今年度も「チーム明正」は実践されていると思われる。

当委員会では、ここ数年で配置されるようになった支援スタッフの効果的な活用を要望してきた。今年度は、インクルーシブ教育支援員、エデュケーションアシスタントが新たに配置された。自己評価報告書やヒアリングで「サポートは非常に有効であった」との声が多く聞かれ、支援スタッフを効果的に活用できたと評価する。一方で課題もあり、特別な配慮を要する児童たちの居場所として昨年度 2 学期より「ホットルーム」が設置された。このホットルームがふさがった際の代替場所が不足している。そして、要配慮の児童たちは個別対応での指導が不可欠なため、その人員も不足しているとのことである。今後の難しい課題であるが、検討していただきたい。

児童向け設問「私は放課後、友だちと遊ぶ時間がある」でのプラス評価が 52.7%（前年度 58.8%、前々年度 52.5%）となっており、半数近くの 5,6 年生は放課後に友だちと遊ぶような時間的な余裕はない状況が続いている。学校での縦割り班活動、委員会活動、クラブ活動、体育の時間や休み時間に一緒に体を動かすといった活動が重要となってきたと思われる。

今年度の新たな児童向け設問「学校には相談できる大人がいる」のプラス評価が 82.2%であった。先生方のヒアリングで、担任の先生以外で子供たちが相談できる大人とは誰かをたずねたところ、スクールカウンセラー、養護教諭、以前の担任の先生など、子どもたちは担任の先生以外にも相談できる大人を見つけているとのことであった。子どもが学校生活の中で、相談できる大人がいる環境は望ましいと

思われる。

#### ◎回収率について

保護者向け調査シート回収率 19.4%（前年度 65%）、児童向け調査シート回収率 87.0%（前年度 97%）であった。ただし、分母は令和 7 年度学校要覧の児童数を使用した。保護者アンケートが 3 年度前に紙媒体から Web での回答に変更となって以来、回収率は低下傾向にあったが今年度の回収率は前年度より極端に低下した。特に保護者アンケートの回収率は、保護者全体の意見とするには厳しい数値である。次年度以降もアンケートを実施するのであれば、回収率向上に向けた呼びかけに関して大幅な強化が必要であろう。あるいは保護者の声を聞くための新しい施策を考え、導入していくべきであろう。

#### I. 重点目標について

学校側が設定した重点目標は以下の 3 項目である。

- ① 「明るい子ども」として、  
学ぶ意欲を高め、自らすすんで学習課題をもち、主体的に解決していこうとする能力や態度を育てる。
- ② 「正しい子ども」として、  
思いやりや感謝の心をもって、すすんでよりよい人間関係を築く能力や態度を育てる。
- ③ 「たくましい子ども」として、  
多様な他者のよさを理解し、協働して解決しようとする態度を身に付け、力を合わせて達成する能力や態度を育てる。

#### II. 重点目標についての評価結果

- ① 「明るい子ども」として、  
学ぶ意欲を高め、自らすすんで学習課題をもち、主体的に解決していこうとする能力や態度を育てる。

今年度の学習面に関する学校評価アンケートの児童向け設問「わたしは、すすんで自分の考えを書いたり発表したりしている」でのプラス評価は 54.2%（前年度 63.2%）と 9 ポイント下がっている。この点について、発表が苦手な子どもに対して、先生方がどのように働きかけているかをヒアリングした。すると、今年度の校内研究のテーマが『子どもの「やってみよう」を引き出す探究的な学習を目指して』であり、本校は継続的に「子どもが主体的に学習課題を見つけて取り組む」指導に力を入れている。意見を発表する子どもが偏らないよう、グループ学習の話し合いの中で発言させるようにする、定期的にお題を出して「今日はこの列の人発表」のように、半ば強制的に発言させることもある。教室を見回って「この意見良いから皆に発表して」と個別に先生から声をかける、発言に消極的な子どもはそれぞれに理由や事情があるので一人一人ていねいに見て対処しなくてはいけない、などの工夫・意見を聞くことができた。今後も、児童が自分の考えを発表できる機会がつかれるよう工夫していただきたい。

もうひとつの児童向け設問「わたしは、すすんで友だちの考えを聞いたり話し合ったりしている」についてのプラス評価が 84.0%（前年度 86.4%）と、この数年高い数値を維持している。これより、他者

の考えを受容し協力して問題解決にあたる姿勢は育ちつつあると思われる。さらに自信をもって意見を発信できる表現力を引き続き指導していただきたい。

教科担任制について、自己評価報告やヒアリングによると、複数の教員から、授業に慣れて質を高めることができる、子どもを学年として見ていける、などの意見も聞かれ、その効果を十分いかしていると思われる。一方、課題としては、時間割を組むのがパズルのようで大変、初任の若手教員はとくに教えない教科の指導力が身につかない、という 2 点について、今後の検討事項として残っているのではないか、とのことである。課題解決に向けた工夫を引き続き続けて行っていただきたい。

## ② 「正しい子ども」として、

**思いやりや感謝の心をもって、すすんでよりよい人間関係を築く能力や態度を育てる。**

本校では、おはよう DAY を設けて継続的に「あいさつ」を推進している。自己評価報告書によれば「効果があって、あいさつをする子どもが増えた」と感じている先生がいる一方で、「あいさつをしても返してこない子どもが多くいる」と効果について懐疑的な先生方もいる。これに限らず「生活ルールを守る」、「時間を守る」、「言葉づかい」など、熱心に取り組んでも改善がみられないと感じている先生方もいて、生活指導面の課題はまだ多いものと思われる。

学校評価アンケートの児童向け設問「わたしは、学校のきまりを守って行動している」でのプラス評価は 78.6%（前年度 86.4%）、「先生に注意されたことは理解できる」でのプラス評価は 88.0%（前年度 90.4%）、「わたしは、自分からすすんであいさつをしている」でのプラス評価は 88.0%（前年度 91.2%）となっており、5,6 年生においては 80%から 90%の子どもが「決まりは守るべき」、「あいさつはした方が良い」という意識を持っていると推察される。先生方には、このような意識が実践に結び付くように根気強く指導していただきたい。

タブレットの家庭内での利用について、学校評価アンケートの保護者向け設問「子どもは学校配布のタブレットやスマホを家庭内でルールを決めて適切に使用できている」でのプラス評価が 67.3%（前年度 63.4%）と数値は高いとは言えない。先生方が、学校においてタブレットを子どもに使わせる時に気を付けている事項をヒアリングしたところ、目的以外の使用を防ぐために調べ物をするときには、あらかじめその内容を先生に申請して許可を取らせる、使用内容に不安がある子どもは、先生の目が届くところに席をおいてタブレットを開いた際の前画面がチェックできるようにしているなどの意見があった。また、健康上（眼、姿勢）の配慮から、タブレットを使うときは机の上を片付けて平らな場所で使わせるようにしているとの意見もあった。子どもたちにタブレットを使わせるにあたり、先生方が工夫している取り組みを保護者に向けて機会があるごとに発信していただきたい。

## ③ 「たくましい子ども」として、

**多様な他者のよさを理解し、協働して解決しようとする態度を身に付け、力を合わせて達成する能力や態度を育てる。**

アンケートの児童向け設問「わたしは体育や休み時間にすすんで運動している」でのプラス評価は 76.0%（前年度 76.4%、前々年度以前順に 71.1%、68.7%、63.2%）と上昇傾向にある。「学校生活は楽しい」のプラス評価は 88.4%（前年度 86.0%、前々年度以前順に 82.2%、83.6%、80.4%）とこれも上

昇傾向にある。保護者向け設問「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」のプラス評価は82.8%（前年度77.7%、前々年度以前順に77.5%、74.8%、78.8%）、「本校では、子どもが体を動かす時間が足りている」のプラス評価は63.1%（前年度54.9%、前々年度以前順に60.0%、57.0%、58.2%）と多少変動があるものの、全体的には上昇傾向にある。これらから、子どもが体を動かす事に積極的になっているものと推察される。

明正小学校は常に校庭スペースの問題をかかえており、自己評価報告書の中でもスペースの調整と安全性確保について詳細に不具合が指摘されていて改善策が検討されている。ハード面の問題は当面解決は難しいと考えられるが、体育授業も教科担任制に移行しており、ソフト面の工夫による問題点の改善と安全性向上に期待したい。

世田谷区立 明正小学校

令和7年度学校関係者評価委員会

相賀巳幸 伊藤明子

荻野里絵 城戸康子

高山尚紀 西山朝子

服部光司